



# MEL ニュース

(2018年10月 第7号)

(一社) マリン・エコラベル・ジャパン協議会  
事務局

迷惑台風の度重なる上陸は、国民生活だけでなく自然を相手にする農林水産業にとって、もういい加減に勘弁してよ！の気持ちで一杯です。同時に自然災害に強い農林水産業をつくるのが喫緊の課題になりつつあります。農業分野においては品種改良が競われていますが、水産業でも荒天に耐えられる沈下式生簀や環境変化に強い種苗の研究が多角的に取り組まれています。これ等は、「自然の制約の中で生きるか」、あるいは「自然の脅威を克服するか」の選択の問題というより、産業を守り抜く意思であるように思います。言わずもがな、水産エコラベルも「水産物を持続的に利用するために」という人類の意志であります。

1935年以來都民の食卓を支えてきた築地市場が、10月6日にその83年の歴史の幕を下ろしました。世界の「築地」にふさわしい報道の盛り上がりの中、11日からは豊洲で新しい時代に挑戦することになりました。

『我々プロが目利きして、適正価格で魚を流通させる。そして。魚を食べるという日本の食文化を守る。それが河岸なんだ。築地だ、豊洲だ、じゃない。我々が働くところが河岸なんだ』という元仲卸組合理事長で、現「魚河岸会」の会長を勤められる伊藤宏之さんの言葉に長年築地への信頼を育てて来た誇りと愛着が込められているように感じます。水産物の持続的な利用のための消費者との架け橋を担っていただく「河岸」の皆さんのこれからのご健闘と市場流通の新たな発展を心からお祈り申し上げます。

## 1. GSSI への承認申請関係

予定通り、承認申請関係書類は10月1日からGSSIの審査員の手にとされました。審査員の書類審査のための持ち時間は4週間となっておりますが、既に養殖認証に関する一次審査結果報告（First Feed Back）が届いており、漁業認証もやり取りが佳境に入りつつあります。ただ、ガバナンスとスキーム管理については今のところ動きがありません。

事務局長のHerman Wisse氏が日本で開催される様々なイベントに参加するため今月末来日しますので、MELとは10月30日に打合せを持つ予定です。良い機会ですので、審査のスケジュール管理の他、審査員とのやり取りと審査

員からの一次審査結果報告、その後開催されるベンチマーク委員会への対応において想定される問題について率直な意見交換をしたいと考えております。

なお、9月26日に行ったプレスリリースは専門紙等に掲載されましたのでご覧いただいているかと思いますが、次の通りです。

## プレスリリース

2018年9月26日(水)  
(一社)マリン・エコラベル・ジャパン協議会

**(一社)マリン・エコラベル・ジャパン協議会は、2018年9月25日(火曜)に、GSSIへの承認申請をしました。**

### 1. GSSIへの承認申請について

MEL協議会は、MELが国際的にも評価され、認知されるものとなるため、FAOの水産エコラベルガイドラインに則した認証の体制・基準となっていることを確認する団体であるGSSI(Global Sustainable Seafood Initiative)からの承認を受け、国際規格化することを目指し、今般、2018年9月25日に承認申請をしました。2019年春頃の承認に向けて手続きを進めてまいる所存です。

### 2. MEL協議会からのメッセージ

GSSIへの承認申請＝今日が始まりであることを一同心に刻み、承認取得に向けて邁進します。

並行して、MELのミッションである水産エコラベルが日本の社会に受け入れられ、もって日本の水産業が世界で輝き取り戻せる様全力を尽くすため次の3点をお約束します。

- ① MELは、日本の水産業改革の一端を担うとともに、日本社会に水産物の持続的利用という考え方を浸透、定着させ、SDGsの14番目の目標である「海の豊かさを守ろう」の実現を図るため、最大限の貢献をします。
- ② MELは日本の自然と水産業の多様性(生物的、産業的、食文化的)を生かす持続的社會をつくることを強く意識します。
- ③ MELは、日本同様、多様な自然と産業、文化を持つアジアの国々や人々にとって、些かでもお役に立てるよう尽くします。

### 3. 皆様への御礼

今回のGSSIへの申請書の提出はもちろんデータ送信ですが、紙ベースにすればA-3表裏で80ページの膨大なものとなりました。申請書作成に当たっては、国内外を問わず大変多くの関係皆様の大変御丁寧な対応と御協力の賜により完成させることができ、この場をお借りして深甚なる感謝を申し上げます。引き続き、関係皆様の御指導と御支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

専門紙だけでなく、とかくMSCとASCの報道に偏りがちの一般紙にも取り上げられるためには更なる行動と実績が必要と受け止めています。

## 2. 日水資の JAB 認定の進捗状況

JAB による認定審査は、10月18日に申請受理がホームページ上に公表され、ようやく第6段階の書類審査に入りました。7月10日の申請から実に3か月という予期せぬ期間を要しました。MELがGSSIへの承認申請の次のステップであるベンチマーク委員会審査に進む上で絶対に必要な審査機関(現在は日水資)のJAB認定取得のためのプロセスが本格的に始まりました。

日水資には、MEL審査員の研修等多忙な中ですが、約束の期日内に取得出来る様着実な対応をお願いしております。

## 3. 認証取得のための講習会と新バージョンでの認証開始

MEL 認証取得のための講習会は、今月は29日に高知で開催を予定しております。受け入れ側の皆様のご都合で中々日程の調整がつかず、1か所のみとなりました。年間予定からしますと遅れ気味ですので、11月以降に取り返すべく計画している各地と詰めています。また、計画外の三重、和歌山、大分等からも申し込みがあり、対応を準備中です。

MELの新認証規格の漁業、流通加工(Ver. 2.0)は2月1日に、養殖(Ver.1.0)は3月9日に発効しており、また新規格に対応するための審査員研修会も第1回は9月18-19日、第2回は10月22-23日に終了しており、日水資による審査体制も整いつつあります。ただ、目下GSSIの承認審査の過程であり、今後の成り行きによっては規格の修正がありうるので、そのリスクを頭に入れながら新規格での審査の開始を考えたいと思っております。(もし、認証規格の修正を余儀なくされた場合は、たとえ合格しておられても対応をお願いすることを前提に審査を受けていただくこととなりますが)。

## 4. イベントへの参加

10月20-21日に横浜で「東京湾大感謝祭2018」が開催されました。このイベントは、市民、企業、団体、国、自治体が一緒に海の再生を考え、行動する場として2013年から続けられています。東京湾大感謝祭実行委員会が主催し、国交省、文科省、環境省、水産庁、水研機構、海洋研究開発機構、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県等が後援する大規模な催しです。

MELは「江戸前の恵みゾーン」に水産庁、全国イカ釣り漁業協議会、JF千葉漁連、神奈川県漁連等とともに出展し、日本の多様な水産業とそれを支える「水産エコラベル」を来場の皆様に訴えました。前日があいにくの時化のため予定した海光物産様のMEL認証の東京湾のスズキは手に入りませんでした。金目鯛延縄漁業でMELの認証を取得しておられる宇都宮水産様のキンメダイ(漁場は東京湾ではありませんが)や、MELマークのついた商品を十三

漁協様（シジミ）、久二野村水産様（イカの塩辛）からご提供いただき、資源を守る漁業とその漁獲物の現物や商品をご覧いただきながら水産エコラベルとは？を実感いただきました。幸い晴天に恵まれた2日間家族連れで賑わい、中でもお父さんが興味を持たれる姿がとても印象的でした。

案内パンフレット

MELのブースの様



MELを知っていただく或いは興味を持っていただくことは容易ではありませんし、ブースのプレゼンテーションもまだとても満足できるレベルではありませんので、専門の企画運営会社のお力を借りながら一歩ずつ向上させる様努力を続けます。

先月号でご報告しましたが、「近畿産業連携ネットワーク」のフォーラムにおいて話題となりましたデパ地下に展開される鮮魚専門店の店頭でのイベントとして、NPOの「水産資源回復管理支援会」主催で阪神百貨店の梅田店でMEL、AEL認証商品の販売が行われました。今後も、勿論CoC認証取得の問題はありますが、このような機会と場を積極的に取り込んで消費者に近づいて行きたいと考えております。

**MEL・AEL製品販売**  
水産資源回復管理支援会  
大阪・阪神梅田店で

水産資源回復管理支援 阪神梅田本店地下1階の会は4~10日、大阪市の鮮魚店・魚くみで、マリ

北陸丸のサケや輪島丸のブリを販売した

MEL製品は北陸丸(北海道稚内村)のサケ、輪島丸(石川県輪島市)のブリ、AEL製品はJF愛南漁協(愛媛県愛南町)の養殖スマと養殖マダラを週替わりで販売。4日には対面説明も行った。持続可能な漁業・養殖業で生産された水産物をアピールした。対面説明は17、20日も行予定。

ン・エコラベル・ジャパン(MEL)認証と養殖エコラベル(AEL)認証の製品を販売した。17日から23日にも販売する。

(水産経済新聞より)

## 5. 会員募集と小売業へのアプローチ強化

GSSI への承認申請を機に、会員募集を再開しました。今回は春にお声がけ出来なかった企業、団体が対象です。特に、MEL の弱点で小売業の認証取得者がまだゼロである実情を改善するために、消費者との接点を持たれる小売業の皆様を意識を高めることにお力添えをいただく観点から小売業団体にご説明に上がっております。

既に、一般社団法人全国スーパーマーケット協会様（会員企業数 310 社、店舗数 10,000 店）には会員となっていておりましたが、今回 CGC ジャパン様（CGC グループ加盟企業 214 社、店舗数 4,100 店）に入会を快諾いただくとともに、今後メンバー小売企業様へのアプローチをご一緒に進めることにご賛同いただきました。これから機会をとらえ、小売業のトップの皆様へ「水産エコラベル」への理解と行動を働きかけます。

秋は、様々な学会や各種のセミナー、シンポジウム或いは大学祭が賑わう季節でもあります。

GSSI への対応をきっちりやりながら、出来る限りこれらの機会に参加し、皆様との交流を通して、日本の社会に水産エコラベルを浸透させる様関係者一同頑張っております。どうかよろしくお願ひします。

以上